

「活躍する地域の代協」

都道府県代協レポートリレー

第82回

香川県代協

子どもたちの「気づき」が地域の安全をつくる

■香川県代協が取り組む「ぼうさい探検隊マップコンクール」
「ここは災害が起きたら危ないかもしれない」「こんなところに防災設備があるんだ」。

子どもたちが地域を歩き、自分たちの目で見つけた「気づき」を一枚の地図にまとめる。香川県損害保険代理業協会(香川県代協)では、「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」への取り組みを進めています。

「ぼうさい探検隊」は、子どもたちが実際にまちを探索し、災害時に危険な場所や役立つ施設、防災設備などを調べ、それを防災マップにまとめる活動です。防災を「教えてもらう」のではなく、自分たちで歩いて見て、考えて、そして誰かに伝える。その過程そのものが子どもたちの防災意識を育てます。また、地域の方々に話を聞いたり、活動を見守ってもらったりすること

とで、子どもたちと地域とのつながりも生まれます。日本代協からも各都道府県代協に積極的な取り組みが呼びかけられており、香川県代協でも新たな取り組みを始めて今年で3年目となりました。

香川県代協の特徴は全国コンクールの表彰に加え、県内の応募作品を対象とした独自の表彰も行っていることです。子どもたちの頑張りを地域でたえ、活動を次の世代へつなげていくことを大切にしています。その成果は、薑に表れています。

第22回小学生のぼうさい探検隊マップコンクールでは、高松市立塩江小学校「塩江防災探検隊」が全国コンクールで審査員特別賞を受賞しました。また、三豊市立麻小学校「麻っ子ぼうせい隊」は、地域を歩きながら危険箇所や災害時に役立つ場所を調べた活動が評価され、香川県代協独自の表彰で優秀賞を受賞しました。

塩江小学校では子どもたち自身が調査する場所を考えた「気づき」が、家族に伝わり、地域に広がり、地域の安全につながっていく。香川県代協はこれからも「子どもたちの発見が、地域の安全をつなぐ。」という思いを胸に、ぼうさい探検隊をはじめ、地域に根ざした活動を続けてまいります。



塩江小学校の子どもたち



麻小学校の子どもたち